

クリエイティブ京都

Management & Technology for Creative Kyoto

M&T

Jan.2009

01

No.041

CONTENTS

- P1・2 平成21年 年頭のあいさつ
- P3・4 特別寄稿
- P5・6 京都ビジネス交流フェア2009開催案内
- P7・8 けいはんなビジネスモデルプレゼンテーション2008
- P9・10 京都中小企業優秀技術賞受賞企業紹介
- P11・12 KIIC会員事業紹介
- P13・14 設備貸与制度
- P15 京都府元気印中小企業認定制度・経営革新計画承認制度のご案内
- P16 けいはんな分室から
- P17・18 環境講演会
- P19 研究報告から
- P20 京都発明協会
- P21・22 受発注コーナー
- P23 行事予定表

逆境の時こそイノベーションを

京都府産業支援センター会長 石田 明



新年あけましておめでとうございます。

今年は干支の丑(ウシ)にあやかり、粘り強さをもって、激動の社会の中、皆様とともに京都産業の一層の発展を目指して参りたいと存じます。

昨年6月に、村田前会長の後任として、(財)京都産業21と京都府中小企業技術センターのホールディング組織である京都府産業支援センターの会長に就任して半年余りが経過しました。昨年は、「丹後・知恵のものづくりパーク」の開設や「きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業」の創設など、今後の中小企業振興の中核となる機能を大幅に拡充した記念すべき年でありました。

また、この間には、米国金融市場の混乱に端を発する不況の波が、瞬く間に世界経済を飲み込み、府内中小企業の経営環境は近年にない厳しいものとなりましたが、一方で不況の後には経済構造の大きな変革が訪れることも過去の経験が物語っています。

イノベーションの時代と久しく言われてまいりましたが、このような逆境の時にこそ、「脱本業」「拡本業」の観点で自らの経営を見つめ直し、コア技術を磨き上げ、やがて到来する変革の時代に備えることが大変重要な事だと考えております。

幸い京都には、幾多の嵐を乗り越え、時代の変革に適応してきた知恵と経験があり、またそれを支える歴史と文化、様々な価値観を共有する進取の気鋭に富む力強い風土があります。これら「京都気質」を最大限に発揮し、伸ばしていくことが京都の産業振興の基本であると認識しております。

京都府産業支援センターにおきましては、京都府をはじめ中小企業振興に関わる多くの関係機関との密接な連携のもと、市場開拓・取引あっせんの強化や下請かけこみ寺の拡充を通じて、逆風に耐える経営の確立・安定化を支援するとともに、次代を担う人材の育成、経営革新、技術向上、連携交流、起業など中小企業の新たな飛躍を応援する種々の事業・サービスを展開して、企業の皆様とともに経営課題の解決に取組み、一層前進してまいります。

皆様の一層のご理解とご活用をお願い申し上げますとともに、この一年のますますのご繁栄とご健勝を心から祈念いたします。

府民生活を支える「力」を集めて、信頼の「京都」へ

京都府知事 山田 啓二



府民の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年は、北京オリンピックで京都府ゆかりの多くの選手が活躍され、また、京都と縁の深い益川敏英氏、小林誠氏、下村脩氏がノーベル賞を受賞されるなど、京都府民として誇らしい年となりました。また、源氏物語千年紀では、記念式典に天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、「古典の日」宣言を行うなど京都の未来を文化の力で照らす大きな可能性を示すことができました。

ただその一方で、世界的な金融危機が景気の急速な後退をもたらし、府民生活に大きな影を落としつつあり、生活への不安感が拡大したまま新たな年を迎えることになりました。

しかも、このような厳しい経済状況の中で、府民を支えていかなければならない立場の京都府において一連の経理不祥事が起きたことは、誠に申し訳なく思っており、心からおわび申し上げます。府民の皆様の信頼を回復していくためには、徹底した再発防止と、京都府が厳しい時期を乗り切るべく死力を尽くすことしかないと考えております。

それだけに、今年は、今一番厳しい立場にある中小企業や雇用の不安を抱えている人たち、また高齢者や障害のある方々など社会的に弱い立場にある人たちをしっかりと支えていく府政を第一に、その上に「京都の持つ豊かな力」が発揮できるよう、府民生活の基盤である「地域」に活力を取り戻し、京都の産業力を強化するための取り組みを進めていきたいと考えています。

ありがたいことに「京都」には、長い歴史の中で常に新しいものを生み出し続けてきた文化力と環境と共生しながら創り上げてきた思いやりの心があります。この京都の「力」と「心」こそが今の厳しい時代を乗り切る鍵であり、「心の世紀」二一世紀の日本のモデルを京都から発信していきたいと思えます。こうした京都の力は、京都の人の力であり、京都の心は京都の人の心です。行政は、京都の人たちが力を発揮できる環境を整え、京都の「人」のパワーアップを行う機関でなければなりません。

京都府では一昨年来、「地域力の再生」を目標に掲げ、地域でがんばる皆様とともに、地域が元気になる取り組みを進めてまいりました。これまで七百を超える連携・協働の活動が行われており、まさに京都の力を増し、京都の心を発揮する取り組みの輪が広がっています。他にも、総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」、京都モデルフォレスト、京都産業エコ推進機構などの取り組みが、皆様との連携・協働で着実に成果を上げています。また、平成二三年には、「国民文化祭・京都二〇一一」が開催されます。

これからも、京都府庁も府民サービスの最大化を目指して、すべての施策が府民起点で行われるよう全力を挙げて改革に取り組んでまいります。府民の皆様にも、京都を良くし、京都の力をアップし、京都の心を発揮する多くの取り組みにご理解をいただき、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

結びに当たり、この一年の府民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

諸行無常か、それともチャンスか(?)¹

かつて『平家物語』は、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」と書いた。最近の米国発金融危機に始まる世界と日本の世情をみると、まさに諸行無常、すなわち万事「はかない」という感がある。これは、自分達の力ではどうにもならない「地震や台風」というような自然の猛威にさらされているわれわれ日本人の多くが、思考の底辺に持っている共通感覚でもあろう。地震で巨大な建物が崩壊し、また台風のために農地で丹精に作られた作物が無に帰すのを目の当たりにすれば、そういう思考が身につくのは自然である。

われわれ研究者の間でも、今回の金融危機のような「津波」に近い将来必ずくると考えられていた。しかし、その「津波」という表現が端的に含意しているように、その認識は日本の力ではどうにもならないアメリカ発の市場の暴力だという状況把握にとどまり、それにどう対処するか、その後の世界経済はどう動くのかということを議論するには至らなかった。

しかし、現実には大規模な津波に襲われてみると、そういう思考様式自体に反省が必要なことは明らかである。

まず、「諸行無常」を日本人の宗教思想のように考えることの意味である。今になって考えてみれば、仏教が「諸行無常の絶え間のない変化」を説いたのは、「その変化から抜け出す努力を喚起するため」であったという見方(たとえば、保坂幸博『日本の自然崇拜、西洋のアニミズム』)をとるべきではないかと痛感する。変化から抜け出すためには、自然の微妙な変化を見るように、変化の実相を洞察することが肝心であり、そうすれば新たな道筋も見出せるという思考である。

今回の金融危機も、良く言えばアメリカの最先端の金融システム、悪く言えば複雑極まりないその仕組みに胎胚したものであり、それが新興国の成長の芽を破壊してしまうのであれば、ここしばらく続いてきた世界経済の高成長の結末はあまりにも「はかない」と言わざるをえない。しかし、そういう感傷に耽っていても何事も始まらない。まずは変化の実相を見ようとする必要があるであろう。

私は金融システムの専門家ではないので、実相の全体を説明したりすることはできないが、専門の産業組織論の研究の中でいわゆる金融工学についても多少の勉強はしてきたし、またスタンフォード大学の近くに持っていたマンションを、2年前にある事情から長い時間をかけて売った経験からも、ある種の判断材料は持っているつもりである。

それらの経験からいうと、まずアメリカの住宅にかかわる情報・サービスの市場は日本のそれよりもかなり良くできていることは確実である。また、金融のいわゆる派生商品(デリバティブ)というものにも驚くほど多様な工夫がおこなわれている。それによって、アメリカ経済を事実上支えている

る移民や低所得者もマイホームを買ったり、より良い住宅に買い換えたりすることが出来るようになった。供給側でも今述べたような技術革新は、業者が仕事に入る「参入障壁」を著しく低めたので、個人の仲介業者や小さな金融機関も住宅金融にかかわれるようになり、住宅ブームを生み出した。そのこと自体はアメリカの低所得者にとっては画期的なことだったと思う。しかし、「ブーム」は必然的にさまざまな程度の「バブル」ともなう。今回のサブプライムローンの場合には、金融技術のマジック的な操作によってそのバブルが膨張し、破局に至ったことは周知の通りである。

しかし、ただそれだけであれば、住宅市場や住宅金融の欠陥にともなう局所的な傷を治療すれば済んだことだったかも知れない。それが、見る間に大きな傷に広がってしまったのは、ここ数年の間に世界経済の底流では大きな構造変化が起こっており、それが実物経済を巻き込んだ大規模な危機にまで波及したからである。

世界経済の底流にある地殻変動をごく単純化して言えば、世界経済の「牽引力」が新興国に移ってきたということである。最近の米国でベストセラーになっているエル・エリアンの『市場が衝突する時』という書物によれば、その傾向はいくつかのシグナルに明瞭に顕れてきていたという。すなわち、購買力平価でみた新興国のGDPの世界経済への貢献率が、2000年以降、先進国のそれを一貫して上回り、その差が著しく拡大していることであり、その結果として国際的な投資資金の流れが、かつてのように豊かな国から貧しい国に流れるのとは逆方向に、新興国から先進国(米国)に流れているというシグナルがあること。また、2005年以降、世界の長期金利が継続して短期金利を大きく下回り、その差が拡大しているという謎のシグナルがあるが、その背景にも新興国から米国への資金の流れ(国債の購入)がある。

要するに、金融危機の根底には実物経済の地殻変動があるというのである。

私のように主として実物経済の分析をしてきた研究者にとっては、日本が金融技術革新に立ち遅れたことが、今回の被害を最小化するという結果になったことを、意図せざる幸運としてとらえ、小手先の政策にとらわれずに、日本の産業システムの長所をこの際に最大限活かして、日本の経済社会を守り、かつ世界にも貢献をすべきだと考えたい。先のベストセラーで言われているように、それに向かって何が出来るかを懸命に考えるべき時である。



京都府特別参与、一橋大学名誉教授

今井 賢一

¹ 本稿の一部は、日経新聞に掲載予定の拙稿「崩壊からの創造」と重複していること、また私の著書『創造的破壊とは何か 日本産業の再挑戦』(東洋新報社、2008年)から若干の直接引用をしていることをお断りしておきたい。

具体的に言えば、世界が必要としている環境インフラやエネルギー設備、新興国が求めている新幹線やパイプラインなどの輸送インフラ、あるいは医療の通信システムなどを日本の技術と熟練サービスで提供することは、金融危機のなかで新たな投資機会を開拓していくことに他ならず、現在の経済危機の打開策の基点となるものである。また、その種の政策は新ケインジアン派の経済学者達のいう将来の「期待」形成こそが政策のポイントだという理論とも合致する。

我田引水にはなるが、まさに私が『創造的破壊 日本産業の再挑戦』という書物で強調した「日本列島が新素材から組み立て、さらにはITサービスを統合しうる一つのハイテククラスター」であることの実力を示すべき時であり、その意味での「日本ブランド」ともいえるべきものをつくるべき絶好のチャンスだとも考えられる。

心強いことは、新興国のなかで最大の比重をもつ中国とインドの経済が意外に強靱だということである。もちろん、両国経済の行方を危ぶむ声も強い。しかし、スタンフォード大学教授でノーベル経済学賞の受賞者でもあるマイク・スペンス教授の最近の研究によれば、それらの国はこれまでの経済学が見逃してきたダイナミズムを持つという。彼の意見は多岐にわたるが、私流に言えば、10億人のエネルギーは方向を誤れば危険だとしても、それが「今日より明日」をめざして働く意欲に転化しているかぎり、金融危機をも突破する強靱性を持つのだと考えられる²。

先にも述べたように、中国・インドばかりでなく新興国全般の近代化の過程では、情報技術を内包した新たな生産設備、物流インフラ、そして環境問題に対応するためのエネルギー・インフラを整備することが最も優先度の高い課題である。経済危機の影響で多少スピードを落とさざるをえないとしても、国際協力を含めてインフラ投資を進めることの現時点での経済効果は、実際にとてつもなく大きいであろう。

そして、そのプロセスにおいて、日本の産業が決定的に重要な役割を持つことは確実である。私のいう日本列島クラスターがその能力を発揮しうる場面だからである。それがどういふことであるかを、拙著の一部を引用しながら具体的に述べてみよう。

日本の建設機械のトップメーカーである「コマツ」(株式会社 小松製作所)は、世界トップのキャタピラーに次いで世界でもNo. 2の位置にあり、米欧、BRICSだけではなく、中近東、アフリカに到るまで、工場やビル、あるいは道路、港湾の建設・補修に使われる建設機械を販売している。たんに売上げを伸ばすだけではなく、世界トップメーカーのキャタピラーを上回る利益率を上げている点でも、日本の企業としては注目すべきものだが、ここで注目したいのは、同社のITの使い方である。

その「しくみ」は、建設機械の内部に組み込まれる「コムトラックス」とよばれる、センサーによる情報収集、送信のシ

ステムである。これによって、世界各地で使われている機械の稼働や燃料の消費状況などに関するあらゆるデータを、日本にいなながら365日24時間とぎれることなく獲得することができる。それによって、ユーザーに部品の更新の時期を予め知らせることができるし、操業データに異常の信号があれば、何らかの危険があるかも知れないというアラームを発することができる。

かつて一世紀前、ロンドンのロイズが損害保険業によって巨万の富をえたとき、その富の源泉は、電信によって365日24時間世界中から入ってくる情報であり、それによって戦争による危険などを判断し、損害保険料を適切に変更する経営であったと言われたことがある。コマツのシステムはITによるその現代版なのである。

また、そのシステムによって世界のある地域の建設機械の部品更新や保守を早める必要が生じたときには、それに対応できる伸縮的な供給体制などが出来ていなければ、せっかくの情報システムも宝の持ち腐れになる。コマツ・グループには「最強の中小企業集団」といわれる「みどり会」があり、約300社がITシステムのシグナルにしたがって対応する仕組みがつけられている³。

また、このコマツの仕組みは、「日本のハイテク・クラスターを見る場合には、個別のクラスターではなく、日本全体を一つの新しい産業クラスターとして見る必要がある」という論点の具体例として象徴的である。すなわち、コマツの場合、建設機械が使われている世界のあらゆる場所から情報が集まるのは本社東京だが、主力の事業所、工場は石川県小松市と栗津市にあり、各地に散らばっている協力企業みどり会の幹事会社は京都に存在している。正式な社名を「(株)小松製作所」というように、地方企業でありながら、顧客企業や協力企業とのインタラクション、さらには世界各地に散在する機械との情報交換が、あたかも一つの都市に存在するクラスターのように行われているのである。

以上のようなクラスターを京都中心で発展させることは十分可能だと思う。例えば、太陽光発電に関連する技術開発の多様性、京都周辺でのその活発な展開、そしてセンサーなどの中核技術での京都大企業が存在、さらには多種多様な中小企業のネットワーク能力などを考えれば、環境インフラ・プロジェクトを柱として上記のようなシステムを京都発でつukれないはずはない。また、省エネルギーは、技術だけで可能となるのではなく、すべての人々が日常活動のなかで実施していく必要がある。そのためには、新興国を含めて国のすべての人々にとって使いやすい「デバイス」が不可欠である。そういうものを開発するにはニンテンドーDSのようなゲーム機の全能性に注目することも知恵の一つであろう。つまり、ゲーム機には明確な定義というような制約がないので、自動車、医療、音楽、映画など、どんなことにも使える可能性を持つのである。

今回の経済危機をチャンスと捉え、京都ならではの新たな産業構想を具体化することが京都人の使命であろう。

2 事実、最近のIMFの調査研究をみると、今回の危機の影響を含んでいる2008年の中国の成長率は10.5%、インドのそれは約8%を維持するという見通しを示している。

3 『日経ビジネス』 2007年6月4日号のコマツに関する特集記事を参照。

「京都ビジネス交流フェア2009」開催のご案内

産・学・公が集う! 京都最大規模のビジネスイベント

日 時	2009年2月19日(木)～20日(金) 10:00～17:00
会 場	パルスプラザ(京都府総合見本市会館)京都市伏見竹田(地下鉄「竹田」下車)
入場料	無料
主 催	京都府 財団法人京都産業21
共 催	財団法人京都府総合見本市会館
後 援	近畿経済産業局、京都市、京都商工会議所、社団法人京都経済同友会、社団法人京都工業会

*詳細については、ホームページをご覧ください。 <http://www.ki21.jp/bp2009/annai/>

中小企業展示コーナー

府内ものづくり中小企業による製品・技術、自社PR等の展示・商談会
出展企業: 162社・グループ

大展示場
両日開催 10:00～17:00
市場開拓グループ
075-315-8590

技術アライアンスコーナー

自社製品の品質向上(モデルチェンジ)、コスト削減、新商品の企画等のために新技術、新工法を求めて、他社との連携を模索するメーカーと、独自技術の開発等優秀な技術を持ち提案型営業を得意とする中小企業とのマッチングの場を提供。面談をご希望の方は、事前申込みが必要です。(申込み受付は終了しています。)

大展示場
両日開催 11:00～16:15
市場開拓グループ
075-315-8590

きょうと連携交流ひろば2009

ブース展示 産学公金や企業連携の事例及び成果について展示します。

●産学公金連携ゾーン ●企業連携ゾーン ●新連携・地域資源活用等支援制度ゾーン

プレゼンテーションコーナー 産学公や企業連携グループによる取組みの成果を発表します。

2月20日(金) 10:30～16:00

●平成19・20年度「環境産業等産学公研究開発支援事業」成果発表(7社)

●「企業連携グループ活動報告」(6グループ)

第1展示場
両日開催 10:00～17:00
連携推進部
075-315-9425

京都“ぎじゅつ”フォーラム2009

(1)平成20年度京都中小企業技術大賞 表彰式

(2)講演 テーマ 「IT活用による企業グループの競争力強化」～製造業パートナーシップシステムの構築～
情報化優良企業表彰平成20年度最優秀企業賞(中小企業庁長官表彰)受賞

講 師 田中精工株式会社 取締役 坂本 栄造 氏

稲盛ホール
2月19日 10:30～12:10
経営企画グループ
075-315-8848

SCREEN

いつも時代と共鳴する技術。

Synchronize!

進化し続けるエレクトロニクス機器の世界。

最先端の半導体や液晶ディスプレイ、プリント配線板などの製造装置、

また画像処理技術を駆使した印刷関連機器に、私たちスクリーン独自の技術が息づいています。

人に優しいIT社会を築くこと、そして地球に優しい製品づくりを目指すこと。

それが私たちの考える「シンクロナイズ!」。

いつも時代と共鳴する企業であり続けるために。

大日本スクリーン製造株式会社

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目 www.screen.co.jp

ジェトロ京都情報デスク国際化セミナー テーマ「米国新政権の政策と今後の日米関係」 講 師 ジェトロ海外調査部 主任調査研究員 木内 恵 氏	5F ラウンジ 2月20日 13:30 ～ 15:30 ジェトロ京都情報デスク 075-325-2075
若者と中小企業とのネットワーク構築事業 中小企業魅力PRコーナー 京都府内のものづくり企業が若手求職者や大学生等、若者達に自社の魅力をプレゼンします。	5F 会議室 2月20日 14:00 ～ 15:30 経営改革推進グループ 075-315-8848

【同時開催事業】

インキュベートのみやこ推進事業 府内インキュベート施設入居企業の製品・技術展示等の連携・マッチングの場 主催：京都産学公連携機構、京都府、京都市	大展示場 両日開催 10:00 ～ 17:00 京都府商工労働観光部 ものづくり振興課 075-414-4852
京都商工会議所 知恵産業のまち・京都の推進 ー京都府ビジネスモデル創出事業 認定企業を紹介しますー ○自分で作り自分で食べる「自産自消」…………… (株)マイファーム ○京都ブランド海外向け販売ソリューション…………… (株)でんでん ○要介護者の旅行サポート事業…………… (株)旅のお手伝い楽楽	大展示場 両日開催 10:00 ～ 17:00 京都商工会議所 知恵ビジネス推進室 075-212-6470
ものづくりの課題解決のためのデザインマッチング KYOTO DESIGN WORK SHOW 社会や顧客に向けて新しい価値を創造し、提供するために必要不可欠な「デザイン」を得るチャンスです！	大展示場 両日開催 10:00 ～ 17:00 京都府中小企業技術センター 企画連携課 075-315-9506
「新しい技術の息吹」 第2回JSTイノベーションプラザ京都 シーズ発表会 JSTイノベーション京都がこれまで支援してきた多数の研究課題の中から、企業への技術移転や共同研究を目的としたものを企業の皆様に活用していただくことを目的に開催します。	第1展示場 2月19日 11:00 ～ 16:00 (独)科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ京都 075-383-1300
下請取引改善講習会 「下請代金支払遅延等防止法及び下請中小企業振興法の概要」 「下請代金支払遅延等防止法の詳細」「下請適正取引ガイドラインの説明」等受講対象者は主に資材、購買、外注等の業務を担当、または管理されている方々など。 事前申込みが必要です。詳しくは右記へお問い合わせください。	5F ラウンジ 2月19日 13:00 ～ 16:00 (財)全国中小企業取引振興協会 下請取引改善講習係 03-5541-6688

【お問い合わせ先】

(財) 京都産業 21 市場開拓グループ

TEL:075-315-8590 FAX:075-323-5211
E-mail:market@ki21.jp


TOSE SOFTWARE

地球のココロおどらせよう

ゲームソフトから
モバイルコンテンツまで
多彩なデジタルエンターテインメントを
創造し、広く社会に貢献します。

株式会社 トーセ 〒600-8091 京都市下京区東洞院通四条下ル
TEL.075-342-2525 FAX.075-342-2524

事業内容…◎ゲームソフト企画・開発 ◎モバイル・インターネット関連コンテンツ企画・開発・運営
グループ会社…株式会社フォネックス・コミュニケーションズ／東星軟件(上海)有限公司／東星軟件(杭州)有限公司
／Tose Software USA, Inc.／株式会社トーセ沖縄

ホームページ <http://www.tose.co.jp/> <証券コード4728、東証・大証一部上場>

けいはんなビジネスモデルプレゼンテーション2008

2008年11月19日(水)、京都リサーチパークにおいて、関西文化学術研究都市のベンチャー企業にビジネスプラン発表とビジネスマッチングの場を提供する「けいはんなビジネスモデルプレゼンテーション2008」を開催しましたので、その模様を紹介します。

基調講演

「ユビキタス新時代のビジネス創造にむけて」



講師
神戸大学大学院工学
研究科 教授
塚本 昌彦 氏

●コンピュータはもっと小型化する

この10年で最も大きく変化した分野は、ITだと思います。インターネットとモバイルが人々の生活に深く浸透してきました。しかしネットもモバイルも、仮想空間での活動です。一日中部屋にこもりネットで活動し、あるいは外に出てもケータイばかりいじっている人が増えていきます。私はこれではいけないと思い、これからの10年は、実世界で目の前の人と健全にコミュニケーションするためにネットやコンピュータを使うべきだと提案しています。

今後10年でコンピュータはもっと小さくなります。それも豆粒大、ゴマ粒大にまで小さくなります。大型計算機から携帯電話までの過去のコンピュータの小型化の流れを見ると、それは容易に予想できます。そしてそれらの小さなコンピュータが、人、もの、場所に付随して実世界で使われます。具体的には、人に対してはウェアラブルコンピュータ、ものや場所にはユビキタスコンピュータとして利用されます。

●ウェアラブル、ユビキタスコンピューティングの用途

ウェアラブルコンピュータとは、コンピュータを服のように着用する形態です。例として、ヘッド・マウント・ディスプレイ(HMD、頭部装着型ディスプレイ)が挙げられます。HMDは営業・セールスから消防・警察、道路工事など幅広い業務用途が考えられます。あるいはデジカメ、携帯電話、時計など民生用としての需要も見込まれます。HMD以外にも、ウェアラブルにはディスプレイが付いた服や空調、冷暖房機能を内蔵した服、ウェアラブルカメラといったものがあり、これらも業務用途で有望です。

ユビキタスコンピュータとは、超小型のコンピュータを様々なものや場所に埋め込んで、実世界で利用する形態です。例えばICタグ。現在、生産・流通・消費・破棄の全過程でバーコードがICタグに代わるなど、いろいろなものに普及しています。ICタグの用途は今後さらに拡大するでしょう。また最近のトイレのように、センサーによって空間内の人間の活動をサポートするような機能もユビキタスコンピューティングの例です。さらには、ユビキタスディスプレイによる店頭や街頭での情報提供や広告、誘導なども考えられます。これは、パソコンや携帯電話による遠隔操作や双方向での情報のやり取りが加わるでしょう。

ウェアラブルコンピュータには、ビジネスとしてどんな切り口があるでしょうか。1995年にヒットした「たまごっち」のように、カジュアルで新しい切り口が必要です。例えばHMDで、その日に蓄積した映像を恋人や友達に見せながら会話をする、会話中にBGMや効果音を入れる、ジョギングや野球などのスポーツを楽しむといったようなまだ想像していないような使われ方も知れません。このように実世界で目の前の人と健全にコミュニケーションするためにコンピュータが使われ身体活動が増えると、人々は健全な精神と肉体を取り戻します。おそらく10年後には、ネット社会の関与する凶悪犯罪は減るのではないのでしょうか。

●キーワードは「超ポジティブ」

ITは情報処理から生活利用へとその範疇を拡げ、便利で安全、豊かで楽しい機能やコンテンツがますます重要になってきます。それだけに、ユビキタス時代には創造力が求められます。これからの我々にとって必要な資質は、新しいものを生み出し、あっと驚く楽しいことを思いつくことです。そこで私は「超ポジティブ」というキーワードを掲げたいと思います。ポジティブであり続けることで高い創造力が生まれるのです。経営者はもっと夢とロマンを語り、管理職は評論家にならず率先してビジョンを示し、従業員は夢とロマンを忘れず、上司を見習わず、上司の悪口も言わず、「会社のため」と言いながら「社会のため」に働く。そうすればみんながもっとポジティブになり、ユビキタス時代における新しいビジネスを創造できるのではないかと考えます。

ハイテクの一步先に、いつも。

HORIBA

Explore the future

分析は、「解決」をねらう。

環境問題も、画期的な研究開発も。

どんな課題も、まず、分析機器で数値化しなければ、

問題点すらわかりません。

「問題の解決は、いつも分析から始まる」

HORIBAがねらうのは、その一点です。

分析・計測機器の総合メーカー
株式会社 堀場製作所
京都市南区吉祥院宮の東町2
<http://www.horiba.co.jp>

けいはんなプラザ・ラボ棟入居企業の3社によるプレゼンテーションが行われました。その概要を紹介します。

楽曲情報管理事業計画

“音楽の見える化”で音楽との出会いを必然に



有限会社 イクシコム
代表取締役 黒川 誠司 氏
TEL: 0774-98-3925

URL: <http://ixicom.jp/>

当社は音響信号処理に関するソフトウェアの開発を主に行っています。2006年度には(独)情報処理推進機構(IPA)の次世代ソフトウェア開発事業に、弊社研究テーマ「音楽検索エンジン(MSE)開発」が採択されました。

「Music Dimension」は音楽検索エンジン(MSE)の技術を利用し、個々の楽曲の音響信号から特徴を抽出し3次元空間にマッピングします。この類似度マップは、音楽を自動的にカテゴライズされたものとなり、所有する楽曲全体を俯瞰し視覚的に管理することができます(音楽の見える化)。また、楽曲の特徴が座標に反映されるため、個々の楽曲に直感的にアクセスすることができます。この「Music Dimension」を楽曲購入と結びつけ、個人ユーザーを対象とした楽曲アフィリエイト事業、音楽配信事業者を対象としたライセンス事業への展開と、音楽を大量に管理する音楽クリエイターを対象とした音楽素材管理アプリ事業への展開を計画しています。今後とも皆様のご支援をいただければと思います。

中小企業支援「食の安全管理」推進・維持管理サービス



デジタルアシスト株式会社
マーケティング部 マネージャー 林 裕一 氏
TEL: 050-3432-9933
URL: <http://www.digitalassist.co.jp>

当社はパッケージソフト「FormPat 2.0」の開発販売やSaaS型ASPサービス「SharingService.NET」の提供、受託開発を行っています。本事業「食の安全管理サービス」は、食の安全管理を継続的に実施できる仕組みをご提供するサービスです。ASPで提供される品質管理システムに、飲食店等の

ユーザーが日々の運用記録を登録。その記録を当社専門スタッフや提携コンサルタントが監視し、問題点を発見した場合に随時指導や監査を実施します。問題点の早期発見と適切な改善が行えます。

従来のHACCP手法の導入には人的・資金的な余裕が必要でしたが、当社は中小企業でも導入しやすい安価なサービスの提供を目指しています。メリットとして、コストダウンのほか、消費者や流通業者への安全性のアピールなど販促効果の増大があります。不況の今だからこそ、まじめな企業を応援し、安心安全な食品が常に消費者の食卓に並ぶことを目指しています。

通信高速化技術と情報セキュリティの応用技術を活かした、次世代通信環境システムの提供



株式会社クレアリンクテクノロジー
代表取締役 水原 隆道 氏
TEL: 0774-98-3873
URL: <http://clealink.jp>

当社は通信セキュリティソフトの開発を専門としています。本日は新製品のセキュリティソフト「デジ急便」について説明します。「デジ急便」は、従来のSSL通信では保護できないファイルのデータ保護や、送信者から受信者に届くまでデータを一貫して自動暗号化することが可能です。これにより通信傍受や不注意による漏洩を防ぎます。また通信互換性を持たせた独自の高速化通信エンジンを採用し、国内長距離・海外へのデータ伝送を飛躍的に高速化しました。圧縮の効かないデータも高速化して送ることが可能です。多言語対応ですので、海外とのデータ交換もスムーズに行えます。そして誰でもメール感覚で簡単に操作できます。すでに、設計・製造業、電機・機器メーカー、デザイン・印刷、出版・調査業務の企業に導入実績があります。様々なビジネスユースのセキュリティ要求に応える最強のデータ伝送セキュリティシステムとして、今後さらなるビジネス展開を考えています。

【お問い合わせ先】

(財) 京都産業 21 けいはんな支所

TEL: 0774-95-5028 FAX: 0774-98-2202
E-mail: keihanna@ki21.jp

THE NEW VALUE FRONTIER



人のそばに、
環境品質。

1.3MW大規模太陽光発電システム
[日本国内の住宅約360世帯の電力使用量に相当]

スタジアムへの設置 世界最大※

『欧州ソーラー賞(European Solar Prize) 2005』受賞
[施設名称] スタッド・ドゥ・スイス・バンクドルフ・ベルン
※2008年1月現在



パネル発電容量 / 1,347kW パネル設置枚数 / 7,930枚
パネル設置面積 / 12,000m² 完成 / 2007年8月16日

旧市街地が世界遺産に登録されているスイス・ベルン市。そのサッカースタジアムに、京セラ太陽光発電システムが設置されました。人のため地球の未来のため優れた品質を世界へ。京セラが積極的に行っている環境貢献の一つです。

京セラ太陽光発電システムが、スイスのサッカースタジアムで稼働。

京セラ株式会社 〒612-8501 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6

www.kyocera.co.jp

京の技シリーズ

～技術開発に成果をあげ京都産業に貢献した中小企業の紹介～

平成19年度「京都中小企業優秀技術賞」を受賞された企業の概要及び開発された技術・製品等について、「京の技シリーズ」と題し、代表者や技術者のお話をうかがいます。

【第3回】シーシーエス株式会社

『フラット・ドーム照明 LFXシリーズ』



▲代表取締役社長 米田 賢治 氏

●事業内容について

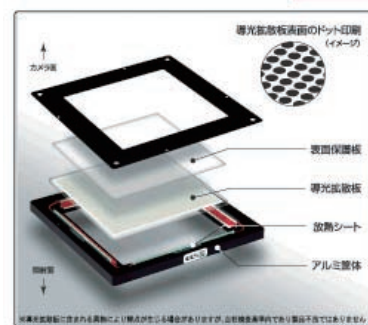
当社の主な事業は、生産現場の検査工程で使われる画像処理用LED照明の開発・製造です。検査工程では半導体や医薬品、缶やプラスチックといったワーク（対象物）の表面に、LED照明の光を当ててCCDカメラで撮像します。その際、光の当て方や波長（色）を工夫することで微細なキズなどを鮮明に映すことができ、精度の高い検査と品質管理を可能にしています。

当社は平成4年に私が個人事業としてスタートしました。かつてある画像処理メーカーで機械設計をしており、その経験を活かして創業当初は画像検査処理装置の製作をしていました。しかし値段が高く、実績も歴史もない小さな会社から購入するのは、お客様にとって大きなリスクであり、なかなか注文がきませんでした。資金面でも厳しくなってきた時、京都のある会社からの依頼をきっかけに、画像処理用のLED照明を開発しました。LEDに着目したのは、当時、超高輝度LEDの登場によってこの分野に将来性を感じたからです。このLED照明で画像処理の精度が上がったとお客様から高い評価をいただき、以降、お客様の要望に沿って最適な照明をカスタマイズする技術を蓄積してきました。当社はこれを“ライティング・ソリューション”と呼んでいます。

カスタム照明の中から汎用性のあるものを標準化していき、その積み重ねで今や標準照明は約400種に上ります。おかげさまで画像処理用LED照明において当社のシェアは現在国内外でトップです。

●受賞技術について

今回受賞した「フラット・ドーム照明 LFXシリーズ」は、従来の生産ラインで使われていた同軸落射照明（表面に光沢のあるワークを均一に照らす照明）とドーム照明（曲面や凹凸のあるワークに対しても影を作らない照明）の両方の機能を併せ持った照明です。しかも厚さが10mmと、同軸落射照明やドーム照明に対して約1/10の薄さを実現しました。同じ機能にもかかわらずコンパクト・低コストなので非常にインパクトがあり、驚かれるお客様が多いですね。



▲フラット・ドーム照明の内部構造

現在は、菓のパッケージや携帯電話に印刷された文字などの撮像検査に使われています。また食品包装の微細な穴あきや太陽電池の検査にも用途が見込まれます。

開発の上で苦労したのは、ドット印刷です。導光拡散板という薄いスクリーンに、光の拡散と透過をコントロールするためのドットパターンを印刷する必要があるのですが、その技術を持つ印刷会社がなかなか見つかりませんでした。いろいろ探した結果ようやく市内に1件見つかり、300ミクロン以下の微細なドット印刷が可能になりました。もうひとつはモアレ（干渉縞）対策です。モアレとは導光拡散板のドットパターンとCCDカメラの画素パターンが重なって、周期的な縞模様がでる現象で、鮮明な撮像を妨害します。その干渉を軽減する方法を見つけ



人材派遣はパソナ。

- 人材派遣/請負
- 新卒派遣
- 人材紹介
- 再就職支援

ホームページ www.pasona-kyoto.co.jp/

株式会社パソナ京都

京都本社 TEL.075-241-4447

京都市下京区四条通堺町東北角四条KMビル4階

滋賀支店 TEL.077-565-7737

草津市大路1-15-5ネオオフィス草津



▲葉のパッケージをフラット・ドーム照明で撮像すると、穴あきが鮮明に見える
注)使用したサンプルワークは当社にて購入、加工したものであり本来の品質・性能によるものではありません。



るのに苦労しました。

今まで賞をもらうことがなかったので、今回の受賞は率直に嬉しいですね。特にエンジニアたちが脚光を浴びたのが良かったです。日頃の苦労が少しでも報われたのではないのでしょうか。

●今後の抱負

当社は画像処理用LEDのみならず、顕微鏡用途やバイオ・メディカル用途などいくつかの新規事業も展開しています。今後力を入れていきたいのは、民生分野です。京都大学との共同研究で、クラシック音楽のバイブレーションを光で再現する技術を開発しました。これによってロウソクのように心地良い光のゆらぎを作り出すことができます。この技術を活かして、人に安らぎを感じさせるLED灯籠などを提案しています。

CCS(Creative Customer Satisfaction)という社名は、当社の理念でもあります。クリエイティブな仕事によってお客様に喜ばれ、社会の役に立つこと。それこそが会社の存在意義だと考えています。これからも、設立当初から掲げてきた「愛と感謝」の精神を大切に、お客様に感動していただける製品づくりに邁進していきます。



▲社屋外観

技術者の声

技術開発課 斎藤 満 氏

製品がコンパクトなため、実験室からサンプルを持ち出してお客様を含む多くの方と評価テストができたのは良かったですね。周囲の協力や助言を得て完成した照明だと思います。当社の強みは、意見を自由に言い合えるフランクで開かれた社風にあると思います。今回の受賞を糧に、より良い製品を作って世の中に貢献できればと考えています。

技術開発課 課長 鹿野 雄一 氏

開発期間は約5年です。そのほとんどの時間が導光拡散板の開発に費やされました。苦労したのはモアレの軽減です。様々な光の当て方をシミュレーションし、最終的に導光拡散板のドットパターンをCCDカメラの画素パターンに対し22.5度傾けることで解決しました。入社以来、表彰をされるのは今回が初めてでした。技術者としての受賞は励みになります。



▲左から鹿野雄一氏、米田賢治社長、斎藤満氏

会社概要

- 会 社 名：シーシーエス株式会社
- 所 在 地：〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル 桜鶴岡町374番地
- 設 立：平成5年
- 代 表 者：代表取締役社長 米田賢治
- 資 本 金：4億6035万円
- 事業内容：画像処理用LED照明装置およびその他LED応用照明の開発、製造、販売
- U R L：http://www.ccs-inc.co.jp/

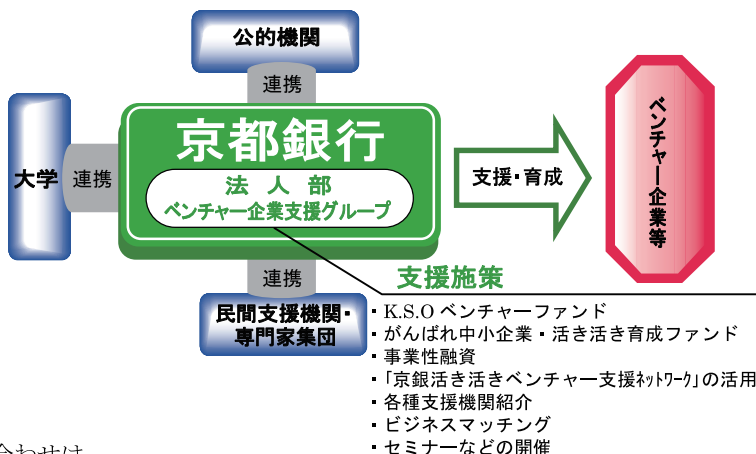
【お問い合わせ先】 (財) 京都産業 21 経営革新部 経営企画グループ

TEL:075-315-8848 FAX:075-315-9240
E-mail: keieikikaku@ki21.jp

ベンチャー企業支援グループのご案内

業務内容

- ベンチャーファンドによる株式投資やご融資を通じて、事業資金のサポートを行います。
- 資金面の支援だけでなくとどまらず、公的機関・専門機関・大学等のネットワークである「京銀活き活きベンチャー支援ネットワーク」等を通じ、経営相談をはじめベンチャー企業のあらゆるニーズにお応えします。



飾らない銀行
京都銀行 法人部

お問い合わせは

ベンチャー企業支援グループ TEL.075(361)2293
TEL.075(341)5984

KIICは、“こんなことをやっています。” vol.2

—きょうとWEBショップ研究会が考える「売れるオンラインショップ3箇条」—

KIIC(京都産業創造交流クラブ)は、当財団の会員制度で、会員の皆様に財団のサービスをご利用いただく制度です。会員は、いろいろな特典に加え、財団が事務局となって具体的なテーマで活動する『倶楽部事業』、会員が自主的に研究・交流活動する『研究会事業』に参加していただくことができます。今回は、参加会員各社がオンラインショップで月商500万円超を目指している『きょうとWEBショップ研究会』の活動を紹介します。

インターネットで商売を

きょうとWEBショップ研究会は、KIIC研究会のE-ビジネス研究会からスピンアウトする形で平成19年に発足しました。その目的は「インターネットを利用した自社商品の販売」や「インターネットを利用した企業価値の向上」にあります。言うまでもなく、インターネットは今日、ビジネスの新たな商圏として確固たる地位を確立しています。その中で、インターネットを自社事業の中核として構築したいという共通の志を持った会員で構成されています。



オンラインショップの今

一口にインターネットを利用した商売と言っても、実際には数多くある競合他社と互角に渡り合うことが出来なければ販売に結びつけることはできません。また、インターネットでの販売が普及・安定期に入ったといえる状況の中で、より売上を増やし、利益を確保することは、日々の改善努力と同時に新たな技術の獲得という非常に険しい道をたどる必要があります。例えば、自社サイトへ集客する、来ていただいたお客様に商品を買っていただく、またリピート販売を実現するなど、売上の向上、安定化に必要な要素は多々あります。それらを実現するにはどうしたらよいのか？思い悩むところです。きょうとWEBショップ研究会は、そのためのノウハウを会員相互に共有する活動を展開しています。

実際の活動は

例会を1.5 ヶ月に1回の割合で開催しています。各回、会員が持ち回りで講師となり、自社サイトの紹介、改善点を披露し、その批評・助言を他の会員が行うという形式です。また不定期ですが、オンラインショップに関連する技術習得を目的として、プロの方を講師とした講習会も行っています。これらの活動により、会員はその成果を持ち帰り、自社サイトへ反映し、より良いオンラインショップへと育てることが可能となります。実際に、会員の中には、この2年間で売上を大きく伸ばした方もおり、努力次第で確実な成果を上げることができます。

参加会員は

現在、会員の多くはリアル店舗を経営されており、その上でインターネットでもそれらの商品を販売されている方がほとんどで



中信

創業・新事業目指す法人・個人のみなさんを支援いたします

ベンチャーローン

《お使いみち》

- 研究開発資金、事業展開に必要な運転資金・設備資金
- 新事業開始にともなう起業家創業資金

中信ベンチャーローンにて対応可能な先

- 京都府知事より「中小企業創造活動促進法」の認定を受けた方
- 京都府知事より「中小企業新事業活動促進法」「中小企業経営革新支援法」の承認を受けた方
- 立命館大学より「研究契約書」の発行を受けた方
- 京都市ベンチャー企業目利き委員会よりAランクの認定を受けた方
- 財団法人京都市中小企業支援センターが実施する企業価値創出支援制度において「オスカー認定」を受けた方
- 以下のインキュベーション施設に入居の方
 - ・「京都大学連携型起業家育成施設(通称:京大桂ベンチャープラザ)」
 - ・「立命館大学連携型起業家育成施設(通称:立命館大学BKCインキュベータ)」
 - ・「京都新事業創出型事業施設(通称:クリエイション・コア京都御車)」
 - ・「同志社大学連携型起業家育成施設(通称:D-egg)」
 - ・「京都桂新事業創出型事業施設」
 - ・京都府けいはんなベンチャーセンター・インキュベートルーム
 - ・龍谷大学エクステンションセンター・レンタルラボ
 - ・京都工芸繊維大学インキュベーションセンター
- 上記の他、当金庫が将来性・成長性ありと認める方

※現在「中小企業創造活動促進法」および「中小企業経営革新支援法」に基づく認定・承認は、法律改正により行われていません。ただし、法律改正施行日の平成17年4月13日以前に知事の認定・承認を受けている方は、平成22年4月12日までの間、本ローンの対象となります。

- | | |
|----------|--|
| 1. ご融資金額 | ・ 一企業1億円以内(無担保扱いは2千万円以内) |
| 2. ご融資期間 | ・ 運転資金: 7年以内(元金据置2年以内可)
・ 設備資金: 10年以内(元金据置2年以内可) |
| 3. ご融資利率 | ・ 変動金利: 新長期プライムレート即時連動型 |
| 4. ご返済方法 | ・ 元金均等返済または元利均等返済 |
| 5. 担保 | ・ 担保もしくは保証協会保証必要。ただし、無担保扱いも可 |
| 6. 保証人 | ・ 法人: 代表者1名(無担保扱いの場合社内保証人1名追加要)
・ 個人: 法定相続人(無担保扱いの場合別途事業従事者1名要) |

※お申し込みの際には、当金庫所定の審査をさせていただきます。
審査結果によってはご希望にそえない場合がございますのでご了承ください。
※店頭で「説明書」をご用意しています。金利情報・返済額の試算等詳しくは窓口またはフリーダイヤル(通話料無料)0120-201-959
[受付時間 9:00 ~ 17:00(当金庫の休業日は除きます)]へお問い合わせください。



京都 中央信用金庫